

〈第14回図書館総合展〉

とびだそう！大学図書館はもっともっとできる： 地域と共にある大学図書館を目指して —図書館総合展ポスターセッションに参加して—

関口 千登世*

[抄録] 城西大学では、地域の社会や文化・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行い、地域と共にある大学を目指している。その中において図書館も教育・研究成果の情報発信をするとともに、図書館の施設を開放し、専門分野の資料提供や貸出サービスを行ってきた。このたび、これらの活動を図書館総合展ポスターセッションで発表することができた。本稿では、ポスターセッション参加のきっかけから、ポスター制作過程、発表後のポスター活用なども交え報告する。

[キーワード] 図書館総合展ポスターセッション、地域貢献活動、社会貢献活動、地域連携、城西大学水田記念図書館

1. はじめに

平成24年11月20～22日の期間、パシフィコ横浜において第14回図書館総合展が開催された。図書館総合展は図書館に関する様々なプレゼンテーションやフォーラムが開催され、企業の出展では最新の技術や動向が見学できるビッグイベントであり、これからの図書館運営への新しいヒントが得られる貴重な機会として日本中から大勢の図書館関係者が集まる。中でも図書館関係団体の活動が発表されるポスターセッションは、工夫を凝らしたポスターが多数出展されるので、本学でも毎年見学し他大学の事例を参考にしてきた。そんな折、2012年夏に図書館総合展運営委員会の担当者が来館され、ポスターセッションへの参加案内を頂いた。この誘いは、“変化する大学図書館”を目指し様々な取り組みに挑戦してきた本学図書館にとって今までの活動を発表するチャンス

であり、これもまた新たな挑戦である。さらにこれからの活動への自信にもつなげられたらという思いもあり、参加することを決めた。ここではポスターで発表した内容と、ポスター制作の様子、広報についても交えて報告させていただく。

2. テーマとタイトル

ポスターセッションに参加するにあたり、まずはテーマを決めた。本学図書館の何を伝えたいか、特色ある活動は何かなど色々考え、近年力を入れてきた“地域との連携活動”を紹介することにした。本学は授業や学生によるボランティア活動など、地域の社会や文化・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行い、地域と共にある大学を目指している。図書館もこの大学の理念に基づき教育・研究成果の情報発信とともに、数々の地域貢献活動、社会貢献活動に取り組んできた。テーマが決まり、エントリーのためのタイトルを「館種を超えた図書館ネットワーク～地域との連携、共同だからできること～」とし、参加登録をした。

* Chitose SEKIGUCHI
城西大学水田記念図書館
〒350-0295 坂戸市けやき台1-1
E-mail: cseki@josai.ac.jp

3. ポスター制作

ポスター作りを始めるにあたり、まずは4名でワーキング・グループを作り意見を出し合った。ポスターを作る上で決められていることは指定のパネルサイズに納まるものということのみで、その他の制約はなく自由に表現できる。話し合いではどのように自分たちの活動をアピールするか、見学者の目に留まる形や色はどのようなものかなど意見を出し合いプランを作成した。初めての参加であり、できるだけ多くの意見を集めポスター制作に反映させたかったので、スタッフ全員にプランへの意見や提案を聞き、次のポスター制作案を作った。

- ・見学者を立ち止まらせることを第一とする。
- ・文字をあまり多くせず、説明文も簡潔にし、目を引くようなイメージとする。
- ・印象付けるために、平面だけではなく立体感があるものにする。
- ・大学の理念に基づき図書館が成長し、その活動が果実として実ったことを表現する。
- ・教員や学生の意見も掲載する。
- ・一般利用者の写真とインタビューも掲載する。

以上のような提案をまとめていくうちに、地域連携による活動を超えた、より広い内容になったためタイトルを考え直す必要が出てきた。そこで、タイトルを「とびだそう！大学図書館はもっともっとできる：地域と共にある大学図書館を目指して」に変更することにした。ポスターのデザインも大学の理念を根に、そこから図書館という木が育ち、図書館員が水を与えて活動のりんごが実ったことを表現することにした。ポスターの印刷は大型プリンターを設置している入試課に協力してもらい、土台となる根と木の部分を印刷した。作業を進める中で特に大変だったのはりんごの部分で、2枚の紙を合わせる形にして、表側には活動の写真を貼り、中側に説明を入れるようにした（写真1）。表側の写真を見て関心を持ってもらい見学者が自分でりんごを開く形にしたが、表側の紙をどうやって留めるか、また、見学者が開いてくれるにはどうしたらよいかなどを考えた。頭で考えていても、実際に作ってみると思っ

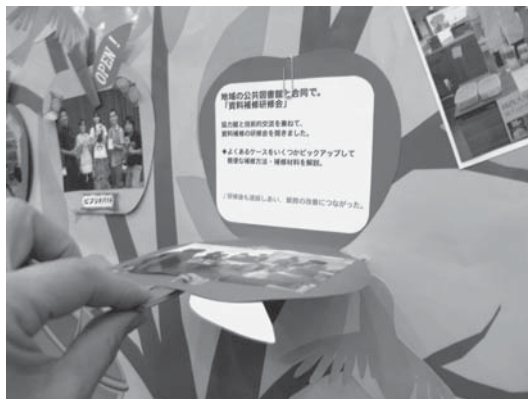


写真1 工夫したりんご



写真2 作業中の様子

ていたとおりにはいかないところも多数あり、工夫が必要であった。紙を留めるための磁石がうまく働かず、いろいろと試してみてもやはり直すを繰り返し、なんとかうまく付けることができた。同様に他の細かい部分もスタッフ全員で、随時意見を出し合いながら作業を進めた（写真2）。

4. 本学図書館の地域貢献活動

本学は以前から地域に図書館を開放していたが、平成19年度にそれまでの地域開放だけではなく、利用者サービスの拡充を目的に、さらに地域とのネットワークを広げるため、近隣自治体公共図書館の一つである鶴ヶ島市立図書館と相互協力協定を締結するに至った。その後も、毛呂山町、坂戸市、日高市、越生町、飯能市と相互協力協定を結ぶに至り、現在6市町の公共図書館との

連携が成立している¹⁾。今回のポスターセッションではこの相互協力提携により実現されたものを含む次の10の活動を紹介した。

- ①地域相互協力図書館長と主務者のつどい
相互協力締結館の館長と主務者がつどい、毎年意見交換をしている。レファレンスワークを共同で行うことや、数々のイベント企画が考案された。
- ②地域相互協力館への無料貸出
地域相互協力館間での資料貸借の送料を相互負担にし、利用者へ無料で提供している。
- ③地域相互協力館主催の公開講座開催
各図書館で会場を提供し、本学教員が無料で講師をすることにより、講師料の予算負担の軽減と効果的な広報ができています。
- ④地域相互協力館合同の実務研修会開催
レファレンスワークの情報交換や破損本の修理方法を学ぶ研修会を合同で行い、技術や情報を業務に活用している。
- ⑤地域の図書館行事に参加
坂戸市、鶴ヶ島市の公共図書館の行事に参加し、貴重書の展示や本学の研究成果物を紹介している。平成24年度は学生サークルも参加し、学生の地域貢献活動の意識向上にも繋がった。参加したサークル所属の学生(薬学部所属)の「漢方研究会として参加し、地域住民の方々と接することができ、貴重な経験となった。今後も学外や地域に目を向けていきたい」という感想も掲載した。
- ⑥地域市民対象の図書館活用講座開催
鶴ヶ島市立図書館との連携により、本学図書館資料の紹介や情報の検索方法を説明した。
- ⑦教員免許更新講座を担当
大学で実施の教員免許更新講座の一部を図書館が担当した。担当教員からは「情報化された機能を持つ大学図書館のツアーを行い、貴重な文献資料を実際に手にとって閲覧していただいた。大学図書館が地域の教員や高校生の利用のきっかけになることを期待する」という感想をいただき掲載した。
- ⑧書評合戦ビブリオバトルに地域の方も応援参加
図書館主催のビブリオバトルで地域の方も

ジャッジに参加していただいた。学生の活動の見学とともに、交流会は学生と地域の方が触れ合う機会となった。

- ⑨城西大学機関リポジトリ「JURA」
平成21年度に城西大学機関リポジトリ「JURA(ジュラ)」を設立し、本学の研究・教育成果である学術論文、博士論文、研究報告書、教材などを社会に広く発信している。
- ⑩ライブラリーカード会員制度
平成20年4月から一般の方を対象にした貸出サービスを開始し、大学図書館の専門書を広く提供している。図書館利用についてのインタビューでは「法学部出身で卒業後も勉強を続け、大学時代の教授が執筆した論文掲載の紀要をよく利用している」「色々な分野に興味がある。大学には公共図書館にはない分野の本があるので毎日でも来たい」などの感想をいただき掲載した。

5. ポスターセッション当日

図書館総合展の初日、満員電車の中、ポスターを抱えパシフィコ横浜へ向かった。出展者の入場開始時刻は9時からであり、すぐに準備に取りかからないと見学者が入場してしまう。オープニングセレモニーの準備で混雑している中をすり抜け、すぐにポスターの掲示に取り掛かった。早朝の満員電車の中を運ぶため壊れることがないように、細かい部分は現地ですべて仕上げることにした。思っていたより早く完成させることができ、最後に発表の趣旨を書いた説明文を設置し、撮影した写真と共に掲示が完了したことを図書館へe-mailで報告した(写真3)。

開場後、少しずつ見学者が増え、本学の説明に耳を傾けてくれた。私立大学図書館所属の方からは「活発な活動が素晴らしい」との感想をいただき、「参考にして、今後ひとつずつ取り組んでいきたい」と話された。ポスターを説明しながら、「公共図書館との交流は新しい発見があり、協力し合うことでお互いのメリットを生み出せる」「図書館だけではなく、地域の中での大学の在り方も改めて考えることができる」なども伝えることができた。一般利用者を対象にした会員制度に



写真3 当日の様子

ついでに、質問には、ポスターに掲載したインタビューを紹介し、資格取得を目指して熱心に利用している方や、生涯学習を充実させるために毎日のように来館する方もいることを紹介した。また、本学で開講している中・高齢者を対象にした健康・体力づくりのためのコミュニティカレッジ「城西健康市民大学」の受講生やエクステンションプログラムの受講会員も図書館の利用資格があり、大学の生涯学習プログラムと連携していることも説明した。

図書館総合展最終日に、ポスターセッション参加者による5分間の発表をして、3日間の図書館総合展が無事終了した。

6. ポスターセッションを終えて

図書館総合展終了後の12月2日に開催された「図書館と県民のつどい埼玉2012」でもこのポスターを展示した。この行事は埼玉県図書館協会および、埼玉県教育委員会が主催し、埼玉県大学・短期大学図書館協議会加盟館の有志館が自館の貴重書を展示するもので、今回のポスターでも紹介している活動である。図書館に関心が深い県民の方にもポスターを見ていただき、本学の取り組みを知っていただくよい機会となった。さらにその

後は、教職員や学生にも見てもらうため、事務棟エントランスに設置した。事務職員からは、図書館が頑張っていることが上手に表現されているという感想や、オープンキャンパスの見学者にも見てもらえるのではないかと意見も聞くことができた。また、図書館がこんなにも幅広い活動をしていることに驚いたという声もあり、図書館の活動を改めて知ってもらえる機会となった。そのほかにも、図書館のホームページ、図書館報、大学広報誌にも掲載し、図書館の広報活動にポスターを利用した。

後日、今回出場した74団体の中から最優秀賞が1団体に、優秀賞が2団体に贈られた。残念ながら受賞はできなかったが、初参加の充実感是十分感じられた。スタッフとの作業中でも「次は何を発表するか」という声が聞かれ、来年も参加したいと思っているのは自分だけではないと感じた。

今回のポスターセッションへの参加では、多くの効果が得られたと感じる。スタッフとの協働作業では、会議とは違うリラックスした中での意見や発想も多く得ることができた。一つの目標を掲げ、協力し合い完成させることの大切さを学ぶことができた。活動を開始してから数年が経過した今、今回ポスターを制作し発表するという本来の目的と共に、今までコツコツと取り組んできた活動を振り返ることができ、今後も継続していくことへの必要性を再認識する機会にもなった。今後この経験を生かし、さらなる利用者サービスを目指した取り組みにチャレンジし続けていきたい。

参考文献

- 1) 若生政江. “城西大学図書館における館種を超えた地域連携. 未来を開く図書館ネットワーク. 埼玉県図書館連携活動報告書”. 城西大学機関リポジトリ. (オンライン), 入手先 (<http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository_JOS-SALA201003>), (参照 2013-01-21).

(原稿受付：2013.1.31)